

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

岡山県矢掛町 国保病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	10	-	ド訓	救臨輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
14,443	7,875	第2種該当	10:1	

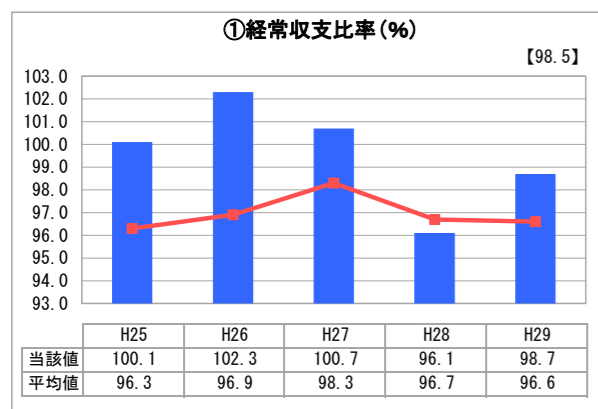
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
57	60	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	117
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
57	60	117

**グラフ凡例**  
 ■ 当該病院値（当該値）  
 - 類似病院平均値（平均値）  
 【】 平成29年度全国平均

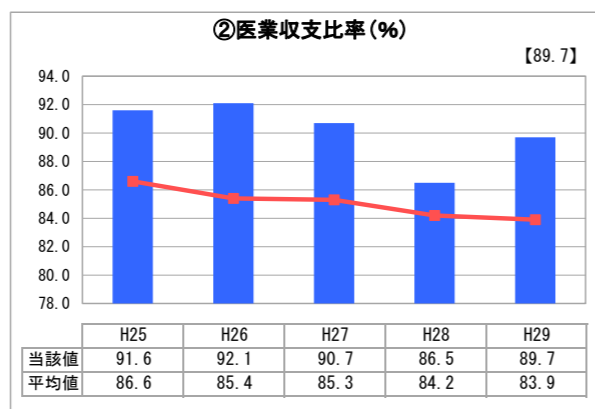
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

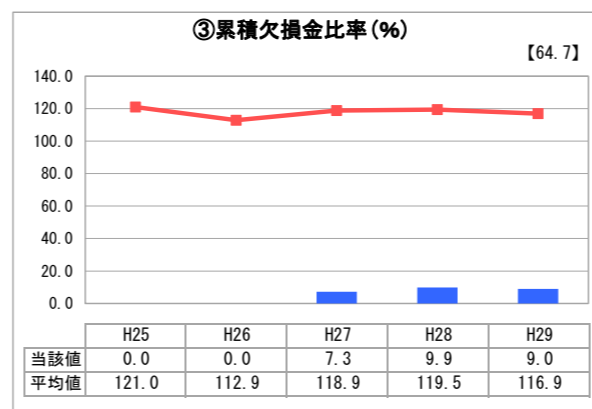
## 1. 経営の健全性・効率性



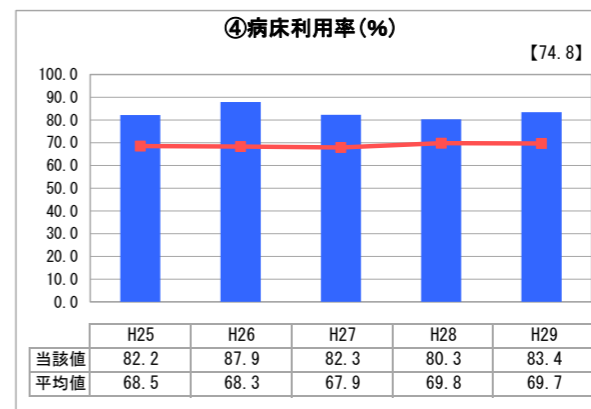
「経常損益」



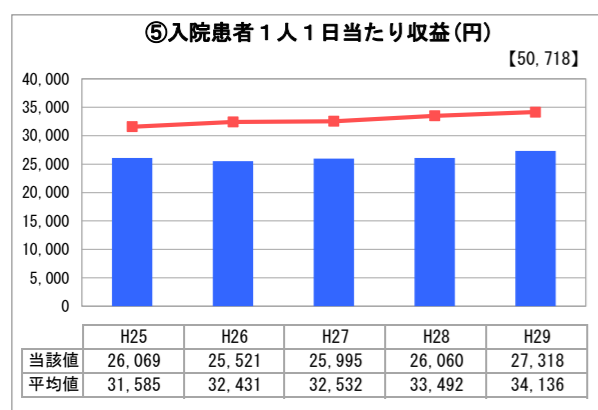
「医業損益」



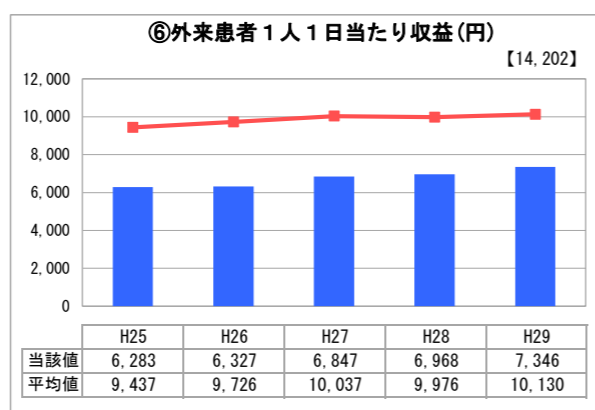
「累積欠損」



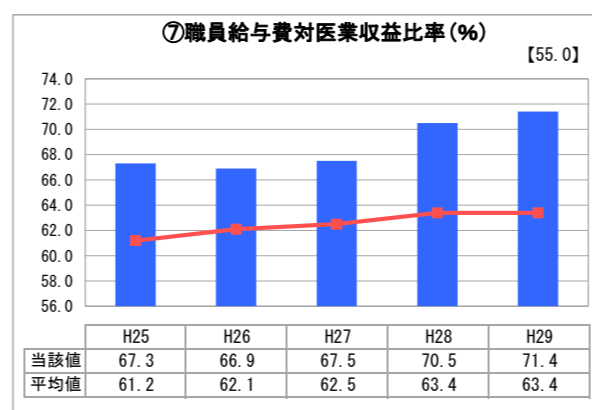
「施設の効率性」



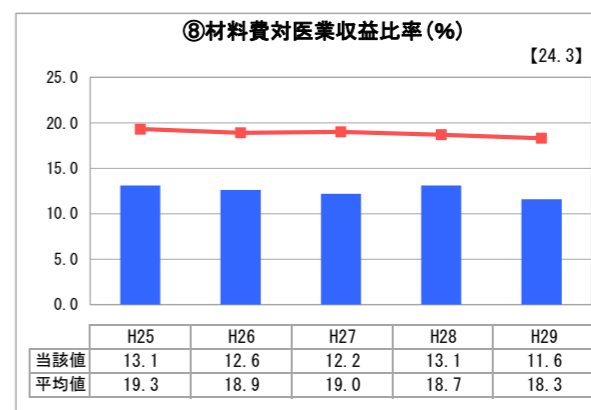
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

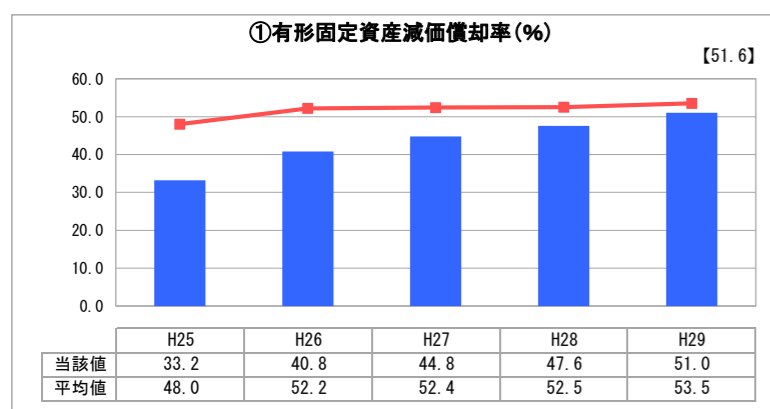


「費用の効率性①」

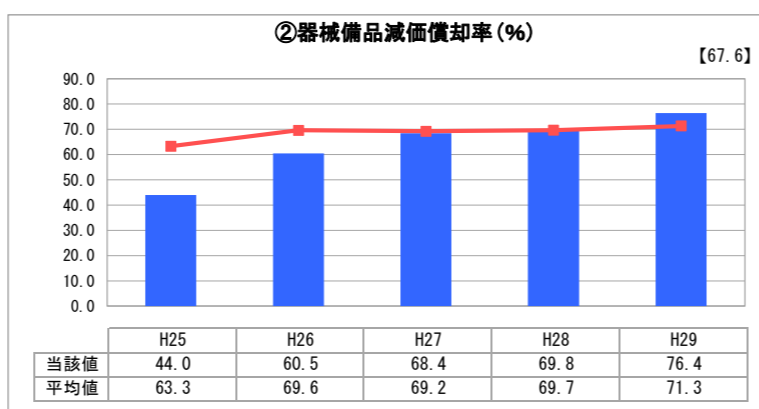


「費用の効率性②」

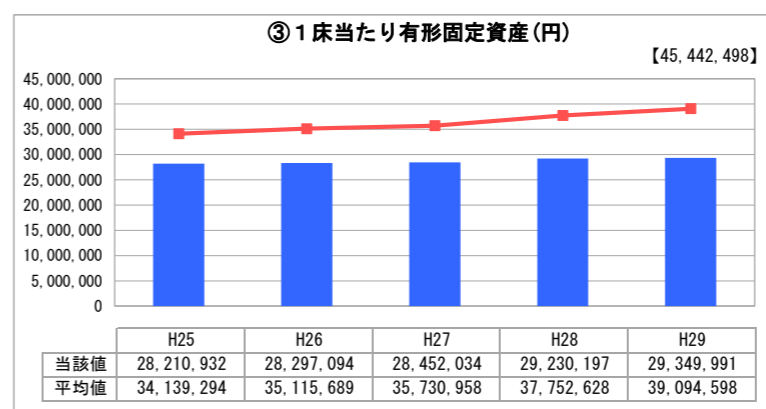
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

町内唯一の救急告示病院として、町内救急搬送の90%以上を受け入れており、町民の安心感、生活安定化に大きな役割を担っている。また、眼科・耳鼻科・婦人科・泌尿器科など、地域のニーズに応じて不採算部門の医療の提供や、CT・MRI等の高度医療機器を使った高度・先進医療の提供も行っている。さらにオープンクリニックを開設し、地域の診療所等とも連携を強めながら地域医療の中核病院としての役割を担っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

平成29年度については、入院患者数の増により病床利用率及び医業収益も増となったが、経常収支比率100%には至らなかった。  
 高い病床利用率をみると地域にとって必要な病院であるといえるが、黒字経営を行うために、入院・外来とも患者の1人1日当たり収益を向上し、人件費を抑制するための対策等を取りながら、経常収支比率100%を持続できる健全経営を行っていく。

### 2. 老朽化の状況について

建物については、平成17年度に改築・改修工事を行っており、比較的新しい状況であるが、機械備品については老朽化が進んでおり、順次更新が必要となってくる。また、CTや電子カルテ等高額な機器の更新時期が重なっているため、今後可能な限り経費を平準化できるよう、計画的に更新を行っていく必要がある。

## 全体総括

29年度は入院患者の増、病床見直し等により入院収益が増となったことから、経営収支比率、医業収支比率とも前年より改善したが、黒字運営には至らなかった。  
 今後は人口減による患者数の減が見込まれ、大幅な医業収益の増は見込めないため、人件費や材料費、委託料等の必要性を再度確認し、経費削減の工夫が必要である。  
 また、公的病院の役割として、引き続き救急医療への取組を積極的に行っていくとともに、町内の診療所等や近隣の急性期病院との連携を図り、治す医療から治し支える医療へと、患者の生活まで考えた地域包括ケアを推進していく。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。